



神奈川支部報

神奈川支部報 第 10 号

発行日： 2018年11月1日

発行者： 込田伸夫

発行所： 公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方

丹沢おぼえがき (3)

近代登山の黎明

アーネスト・サトウの丹沢探訪

砂田 定夫

日本アルプスなどに近代登山として最初に足跡を印したのは、明治初期に来日したいわゆるお雇い外国人たちであった。

「日本アルプス」の命名者は最初に槍ヶ岳に登った冶金技師のガウランド



とされるが、書物の中で最初に日本アルプスという表現をしたのはアーネスト・メイスン・サトウだった。ロンドン生まれのサトウがイギリス外務省の通訳生として来日したのは弱冠19歳のときで、駐日イギリス公使館に勤務し、語学力に優れていたために通訳官、書記官と昇進し、最後に来日した1895(明治28)年には公使としてであった。駐日公使に仕え、特に2代目公使パークスの片腕として活躍、幕末から明治維新にかけて激動の日本の歴史的事件に直面して、明治天皇、徳川慶喜、西郷隆盛など維新を演じた多くの要人たちと会見するなど、外交官として東奔西走した。サトウは登山家としても各地に足跡を残した。主な記録では1877(明治6)年7月の富士登山、1878年7月の針ノ木峠越え、1881年7~8月の甲信地方大旅行のときは奈良田から農鳥岳と間ノ岳へ登頂している。サトウが日本における近代登山の先駆者であったこと、ましてや早期の丹沢にその足跡が残されていることは案外知られていない。1872(明治5)年1月、道志村から宮ヶ瀬への

旅をしたサトウは、翌年11月、横浜の裁判官ハンネン、同僚のアトキンソンとともに大山に登ったのち、蓑毛から「眺めの良い頂上」(旧ヤビツ峠か?)を越えて、4軒の木こり小屋があったという札掛に下って宿泊し、翌日布川の大洞渓谷を経て宮ヶ瀬へ出ようとした。このとき、先行したアトキンソンはサトウらとはぐれ、渓谷の中で遭難しかかったが、九死に一生を得て宮ヶ瀬へ出ることができた。サトウとハンネンも沢の中で迷い、かろうじて札掛へ引き返し、翌日大洞渓谷を避けて上ノ丸の尾根から迂回して何とか宮ヶ瀬へ出たという。

サトウの見識は日本の言語学、歴史、地理、宗教、文化など広く、それぞれの分野で優れた研究を残した。ガイドブック『中央部・北部日本旅行案内』(ホースとの共編)を刊行して日本を広く紹介し、自叙伝『一外交官の見た明治維新』は史料として価値が高いとされる。サトウは滞日期间が25年近く、自ら佐藤(または薩道)愛之助と名乗るほどの親日家だった。武田兼(かね)との間に2男をもうけ、次男が植物学者で日本山岳会第6代会長を務める武田久吉であり、武田も丹沢における近代登山の先駆者となった。(註：アーネスト・サトウ著『日本旅行日記』(庄田元男訳)などを参考)

◎流失? 焼失? - 札掛の大ケヤキ

前号の本文で札掛にあった大ケヤキが1937(昭和12)年の大洪水で流失したと書きましたが、写真の説明では「焼失」となっており、「どっちが正しい?」という質問がありました。台風で流失という記述(ハンス・シュトルテ『丹沢夜話』)もありますが、正しくは「7月の大洪水で流れてきた石が幹を傷つけ枯れさせてしまった」(秦野市『丹沢山のものがたり』)というのが真相ではなかったかと思われます。

「かながわ山岳誌プロジェクト」

2018 年度山行報告

湯船山 かながわ山岳誌 (L コース)

日 時：平成 30 年 6 月 9 日 (土)

コース：明神峠－明神山－湯船山－白クラノ頭－サンショウバラの丘－世附峠－山口橋－駿河小山駅



今回は、サンショウバラを西丹沢で観賞しようと、明神峠から湯船山経由の世附峠へのルートを計画した。今の

時季であれば、明神峠までは季節バスが運行し、一気に標高 900m まで上がることが出来る。天候は、まずまずの天気となったが、肝心のサンショウバラが、今年は、開花が早かったようで、一本の木に一つ程度の花と寂しい結果だった。その代わり、ウツギやガマズミの白い花が満開だったので、花の観賞という意味では満足できる山行となった。(永井泰樹)

参加メンバー

森武昭、高井延幸、大字進、丸山さかえ、渡辺正敏、川朋子、森静子、稲垣哲郎、五十幡愛子、鶴田泰子、細川治子、吉澤平治、國清喜美子、永井泰樹、田島剛、舟根章、廣島孝子、石村日満子、葉上徹郎、中島良行



湯船山にて

陣馬山 かながわ山岳誌 (L コース)

日 時：平成 30 年 9 月 8 日 (土)

コース：大垂水峠－小仏城山－小仏峠－景信山－堂所山－底沢峠－明王峠－奈良子峠－陣馬山－和田

以前、大垂水峠から南高尾山稜を歩いたが、今回は、逆方向に歩き、大垂水峠から陣馬山に向かうコースである。小仏城山に到着すると、高尾山方面からの登山者と合流したため、一気に賑わいを見せる。ここから景信山までの間は、トレイルランナーを含め、とにかくすれ違う登山者が多かった。景信山の先で、小雨が降り出したが、幸いすぐ止んだ。植林帯の続く尾根筋を黙々と進み、堂所山手前の急登をクリアし、堂所山ピークを踏む。明王峠、奈良子峠を通過し、最後のピークである陣馬山では、天気が回復し、青空が見え、北側の連行峰方面の山並みが一望できた。徐々に天候が回復したお蔭で、楽しめる山行となった。

(永井泰樹)

参加メンバー

森武昭、高井紀栄、渡辺正敏、永井泰樹、石村日満子、葉上徹郎、中島良行、*松本博子 *支部会員外



陣馬山にて

役員会報告

6 月役員会

日 時：平成 30 年 6 月 21 日 (木) 19 時 00 分場 所：神奈川工科大学横浜事務所

報告事項

・会員の異動

- ・山行報告
大タル丸 (5/26) 山岳誌 H
湯船山 (6/9) 山岳誌 L

審議事項

- ・山行計画
金剛山 (6/23) 山岳誌 H
芦ノ湖 (6/30) テント泊
- ・役割分担について
山行委員・広報・安全・渉外各担当
- ・国土地理院からの協力要請について
- ・全国支部懇親会
- ・セルフレスキューについて

7月役員会

日 時 : 平成 30 年 7 月 19 日 (木) 19 時 00 分

場 所 : 神奈川工科大学横浜事務所

報告事項

- ・広報担当
- ・会員の異動
- ・山行計画 (日程変更)
大楠山 (10/20)、仙洞寺山 (11/23)
- ・山行報告
金剛山 (6/23) 山岳誌 H (非公開)

審議事項

- ・山行計画
陣馬山 (9/8) 山岳誌 L
箱根/白銀山 (9/23) 山岳誌 H
穂高縦走 (8/29~8/31) 個人山行
- ・年間スケジュール
山行委員会は、8/11(土)or 8/18(土)
- ・親子で楽しむ山登りコース確認について
(大野山、弘法山、矢倉山、城山、南郷山、南山)
- ・イベント計画 アウトドアレスキュー説明会
- ・包括保険実績リスト

9月役員会

日 時 : 平成 30 年 9 月 20 日 (木) 19 時 00 分
場 所 : 神奈川工科大学横浜事務所

報告事項

- ・平成 30 年度第 4 回役員会議事録
- ・会員の異動
- ・山行報告
陣馬山 (9/8) 山岳誌 L
箱根/白銀山 (9/22) 山岳誌 H
- ・支部包括協定保険に関して

審議事項

- ・年間スケジュール
- ・レスキュー講習会について
- ・山行計画
生藤山 (10/13) 山岳誌 L
大楠山 (10/20) 山岳誌 H
箱根/屏風山 (11/10) 山岳誌 L
- ・交付金の確認
- ・親子登山に関して

支部会員動静

- | | |
|----|------------------------|
| 入会 | 10721 増田 達治 (無所属から) |
| | 12581 鈴木 盛彦 (無所属から) |
| | 15552 松味 智晃 (京都滋賀支部から) |
| | 16381 本村 光昭 (新規入会) |
| | 16387 中島 良行 (新規入会) |
| 退会 | 9207 渡辺 廣徳 |
| | 12086 内田 陽一 |
| | 15884 吉岡 敏行 |
| | 16040 渡辺 キミエ |

役員会の予定

- 11 月 15 日 (木) 19:00~
- 12 月 20 日 (木) 19:00~

「個人山行」報告

芦ノ湖 テントお披露目山行

日 時 : 平成 30 年 6 月 30 日

今年からテント泊山行に備えてエスパースの 5 人用テント

を2張り導入した。オールシーズン対応のダブルウォールテントであり、神奈川支部でもよりアクティブな山行が計画可能となった。夏の山行に間に合わせるために梅雨の晴れ間を狙い、参加者8名は芦ノ湖畔のキャンプ場に集合し



た。大槻副支部長が持参したタープで居心地の良いリビングを設営し、楽しい山の一夜を過ごすことができた。ところが三島付近に発生した線状降水帯のため夜半より明け方まで土砂降りに見舞われ、リビングとキッチンスペースが水没する惨事となった。テントはさすがの山岳用テントであり快適そのものであった。しかし水没物品の復旧作業のため残念ながら翌日の芦ノ湖西岸ハイキングは中止とした。近いうちに改めて計画したい。

(植木貞一郎)

事務局長に就任いたしました



この度、5月の総会で事務局長に就任致しました永井泰樹と申します。

支部会員の皆様におかれましては、かながわ山岳誌プロジェクトをはじめ、いろいろとご協力していただき、厚く御礼申し上げます。

また、寺井素子前事務局長の功績には、頭が下がる思いです。心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

神奈川支部は、まだ発足して3期目を迎える程度の若い支部です。現在、支部活動は、かながわ山岳誌プロジェクトを主体として実施されておりますが、神奈川県外の山行となりますと、正直なところ、まだ山行計画が充実しているとは言えない状況です。また、山に登るというだけでなく、支部としましては、登山振興や、山の環境保全といった面からも、活動の場を広げていきたいと考えております。しかし、そのためには、全員が一丸となって、より一層、アグレッシブな活動が必要不可欠です。何卒、ご協力ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。(永井泰樹)

あとがき

役員改選に伴い新事務局長として永井泰樹さんが就任されました。現役の仕事をお持ちになりながら要職を引き受けてくださり感謝いたします。また、広報委員も一部追加がありました。支部報では、「かながわ山岳誌プロジェクト」の報告や個人山行をお届けし、神奈川支部のホットな情報をお伝えしていきます。なお、本報において引継ぎの都合で発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。(剛)

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長 込田伸夫 編集者 植木貞一郎、多田友行、長島泰博、柴山信夫、田島剛